

出会いとふれあいを 楽しみ ともに生きる



トラヂの会（川崎区桜本）

「おいしい」の一言が一番

・毎週水曜日になると、川崎区桜本の桜本小学校内にある「まちなか交流センター」には、たくさんの高齢者とボランティアが『トラヂの会』（代表 李 貴名さん）に集まってきました。「トラヂの会」は、川崎市ふれあい館高齢者交流活動のひとつで、在日韓国・朝鮮人を中心とした高齢者の自主活動として7年前に発足しました。毎週水曜日の午前11時から



代表の李 貴名さん

会の活動など
問合せは ふれあい館へ
電話 044-276-4800

午後2時まで（その後4時までには自主活動）、朝鮮語で歌って踊れる交流会や朝鮮料理の食事会をはじめ、在日一世のためのさまざまな活動をおこなっています。

食事会を担当するのは、発足当時から参加している金 芳子さんを中心にして約10名のメンバー。片時も手を休めることなく、70人以上にもなる参加者の食卓を手際よく用意します。色鮮やかなキムチの和え物、菜園でとれたエゴマの葉を入れ、香ばしいごま油を効かせたレタスサラダなど、見るからに食欲をそそるものばかり。「二人住まいの方も多いので、ここでは、韓国・朝鮮の家庭の味を大事にしたメニューを考えているんです」「おいしいよ！ といわれたときが最高にうれしい」とメンバーは口を揃えます。

参加することで「元気」をもらう

一方、レクリエーションは、慎 玉熹さんを中心に進められています。体をゆすって、踊って、おなかの底から大きな声をだすトラヂ体操がはじまると、慎さんの気合がはいったかけ声に引きこまれるようにして、最初は小さかった輪がだんだん大きくなり、部屋全体がエネルギーに満ちあふれ、躍動感でいっぱい。



食事担当のメンバー



楽しい食事風景



レクリエーション風景

座ったきりのお年寄りも、思わず手や足が踊りだします。参加する皆さんは実に楽しそうで、笑顔がよく似合っています。「私たちが元気をもらうんです」「トラヂの会やふれあい館の識字学級は私の人生そのもの」と語るボランティアメンバーも。トラヂの会は、参加者全員にとって元気の素のようです。

今年の6月、トラヂの会に通う、底抜けに明るく生きる在日韓国・朝鮮人のおばあちゃん「はんめ」たちを主人公にしたドキュメンタリー映画『花はんめ』（金 聖雄監督）が完成しました。川崎でのお披露目もすませ、今、全国で上映がはじまったところなんです。